

2014年(平成26年)の貧酸素水塊(まとめ)

2014年の貧酸素水塊の分布およびその規模を図1～図3に示します。

貧酸素水塊の初確認は4月24日で、ほぼ例年並みでした。

その後次第に底層DOは低下し、6月からはしばしば1mL/L以下の海域が広がりました。7月上旬に貧酸素水塊の規模は最大(49%)となり(図2)、7月としては直近十年の平均を上回る大きさでした。ただ、過去の年間最大規模との比較では、ここ十数年と同等でした(図3)。

7月中旬～9月下旬にかけても北部の広範囲で、継続してDOが1mL/Lを下回る海域がみられましたが、8月上旬に数日間続いた南西風の影響で、貧酸素水塊の分布域が南西方向に移動したため、一時的に規模は縮小しました。

8月下旬～9月上旬に湾奥部で青潮が発生し、また10月上旬と中旬には相次いで台風が通過しました。青潮による貧酸素水塊の海面への放出および台風による攪拌で、貧酸素水塊の規模はこの時期に急速に小さくなりました(図2)。

貧酸素水塊は10月以降は例年通り縮小しましたが、11月下旬でも小規模な発生が見られました。そのため貧酸素水塊の解消が確認されたのは、例年より少し遅れ12月9日でした。

千葉県水質保全課によると、青潮は2回発生しました(6月6～10日、8月27～9月9日)。

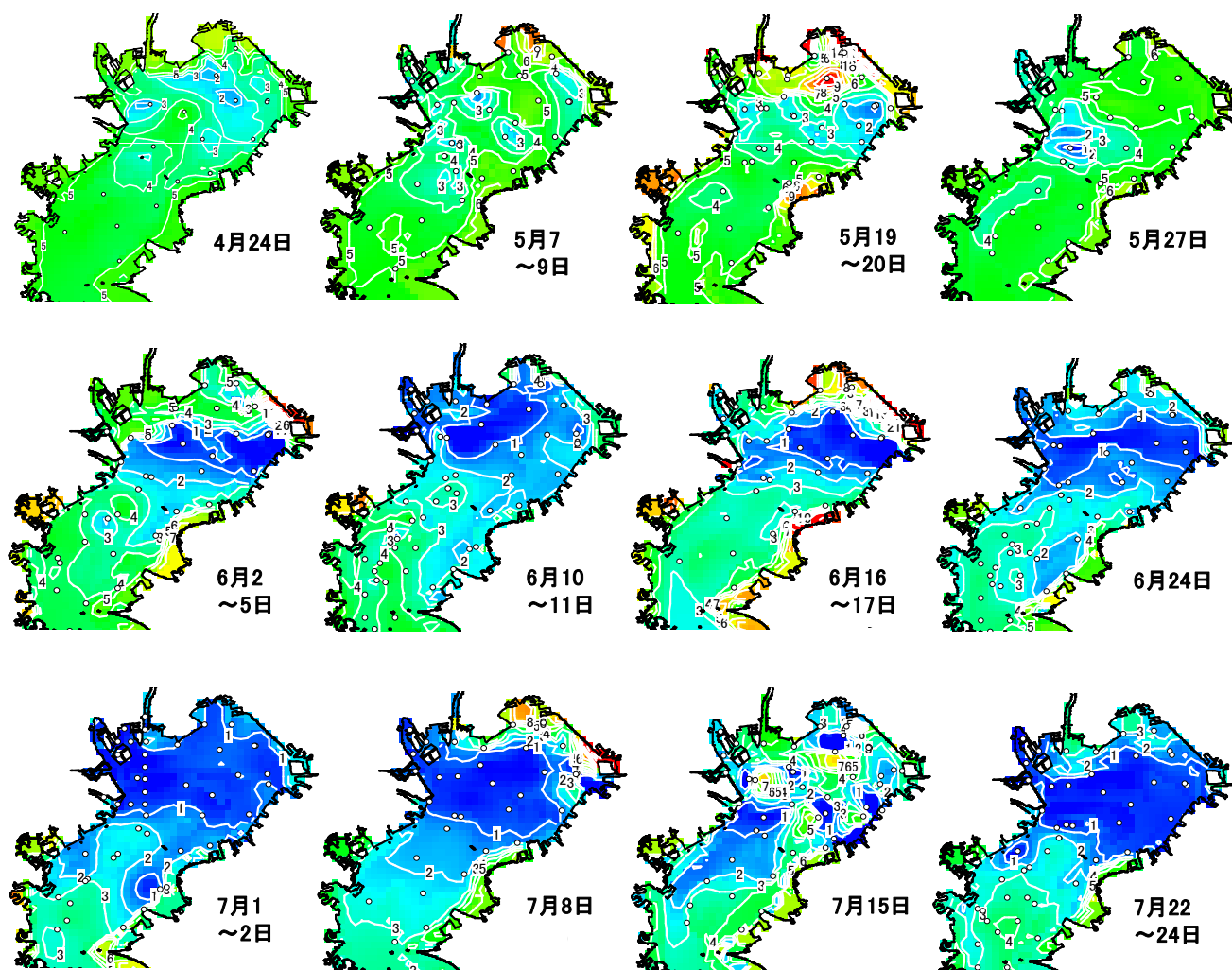


図1 底層の貧酸素水塊の分布

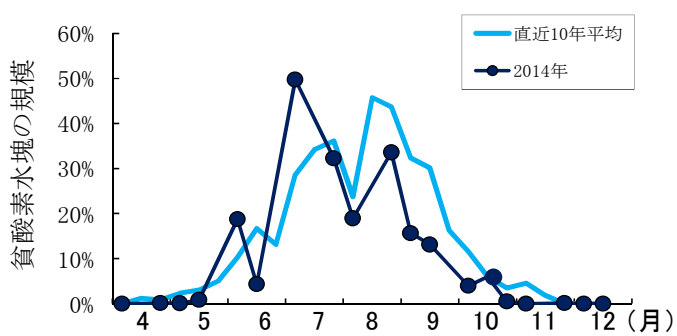
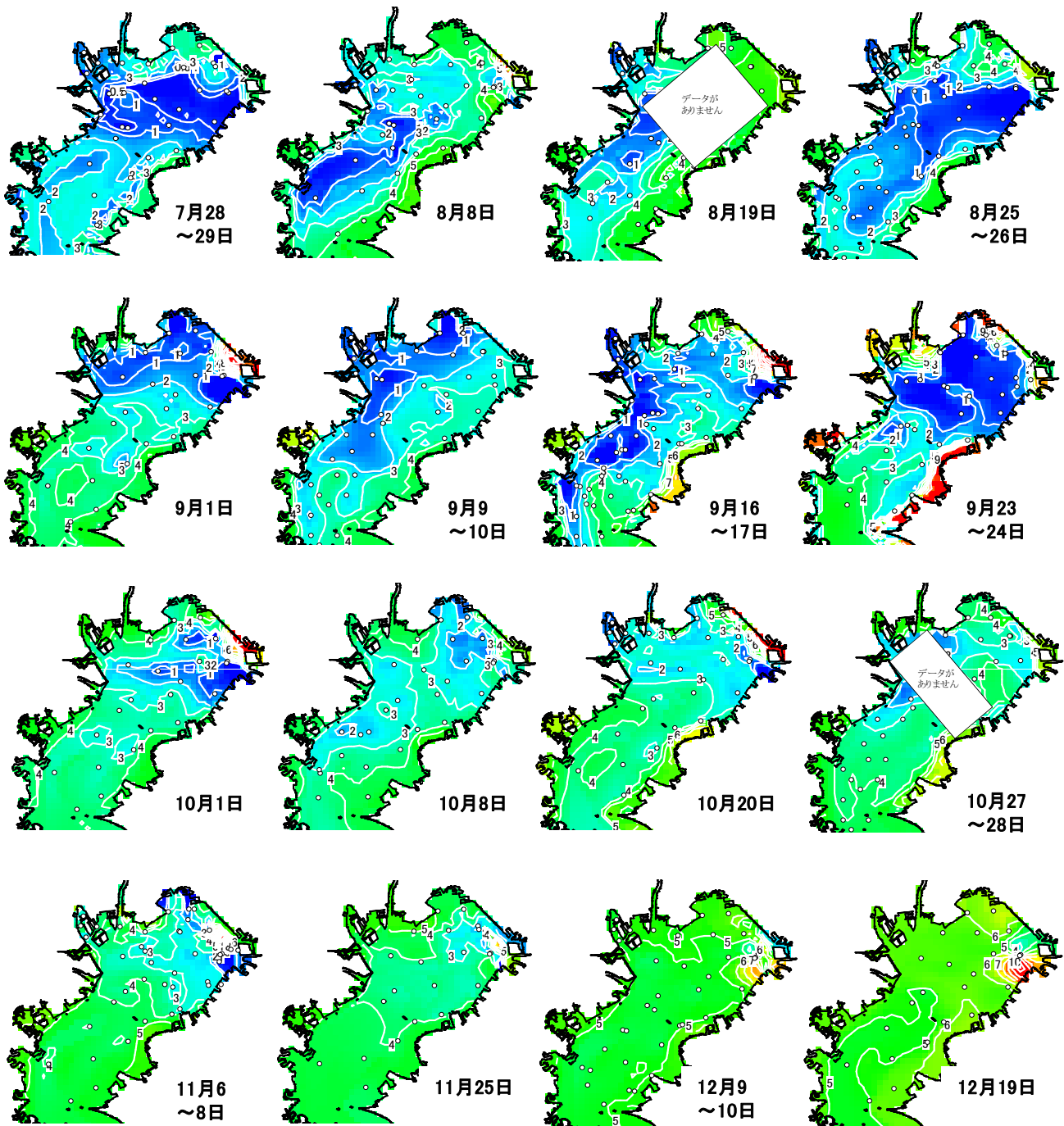


図2 貧酸素水塊の規模

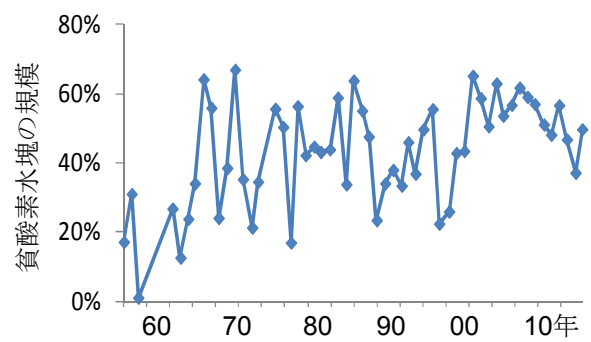


図3 年間最大規模の経年変化 (1955年~2014年)